

新 生

平成三十年三月十日印刷
平成三十年三月二十日発行



東北新生園入所者自治会

新生第七十巻第一号

新 生

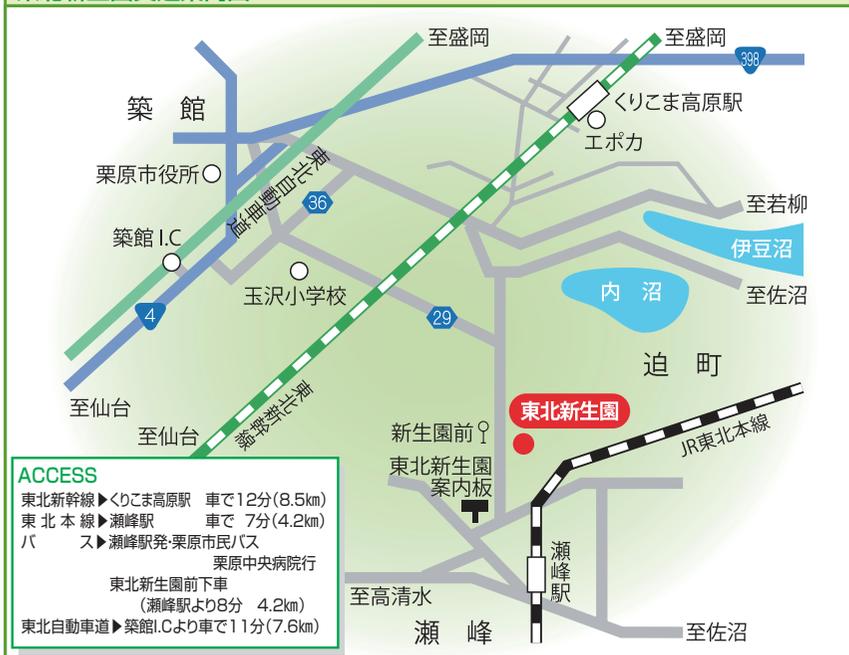
平成三十年三月十日印刷
平成三十年三月二十日発行

第七十巻第一号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男27名 女39名 計66名
職員定員数	150名(平成29年4月1日現在)
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



宮城ハンセン協会招待
SENDAI光のページェント見学バス旅行

— 平成29年12月13日 —



車窓からの
イルミネーション
(仙台市定禅寺通り)



仙台を一望できるレストラン
で食事をしました



園内日誌

平成二十九年 十月〜十二月

《十月》

- 四日 秋田県羽後町有志慰問
- 十二日 秋田県大仙地域結核
予防婦人会施設見学
- 二十二日 第十五回少年少女野球
東北新生園大会
- 二十三日 岩手県弁護士会施設見学
- 二十五日 秋季バス旅行(定義山方面)

《十一月》

- 二日 宮城県疾病・感染症対策室慰問
- 九日・十日 第十六回パネル展・屋台祭り

《十二月》

- 一日 クリスマスイルミネーション点灯式
- 十三日 SENDAI光のページェント
見学バス旅行(宮城県ハンセン協会招待)

【謝寄贈図書欄】

平成二十九年十月〜十二月(敬称略)

多	多	楓	岡山県	邑久光明園		
高	原	多	東京都	多磨全生園		
菊池野	熊本県	栗生楽泉園	群馬県	栗生楽泉園		
愛	生	岡山県	長島愛生園	岡山県	長島愛生園	
青	松	香川県	大島青松園	香川県	大島青松園	
始良野	鹿児島県	星塚敬愛園	星塚敬愛園	鹿児島県	星塚敬愛園	
甲田の裾	青森県	松丘保養園	松丘保養園	青森県	松丘保養園	
かかわらなければ路傍の人	大阪府	川崎	正明	大阪府	川崎	正明
隔離のなかの食	大阪府	川崎	正明	大阪府	川崎	正明
日本ハンセン病学会雑誌第八十六巻一号	東京都	国立ハンセン病資料館		東京都	国立ハンセン病資料館	

平成30年3月10日 印刷
平成30年3月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)
編刷 楓会文化部
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十巻第一号……………目次

表紙：「東北新生園と栗駒山」

年頭のあいさつ……………	楓会会長……………	久保瑛二……………(2)
退職にあたって……………	事務長補佐……………	齋藤浩……………(4)
定年退職を迎えて……………	設管理係主任……………	小山伸男……………(6)
退職に当たって……………	看護師……………	佐竹より子……………(9)
随筆「一人暮らしの爺さん」……………	今野きよし……………	(11)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者……………	佐々木洋一……………(14)
短歌……………	選者……………	川二郎……………(16)
俳句……………	選者……………	田川桃晃……………(18)
川柳……………	選者……………	石田隆子……………(20)
四十年を振り返り……………	看護助手……………	鎌田啓司……………(22)
私も退職なんですネ!!……………	看護助手……………	森直子……………(24)
思い出……………	看護助手……………	藤和子……………(27)
お世話になりました……………	看護助手……………	とみ子……………(29)
四コマ漫画「別れと出会い」……………	原まんが作……………	北村小富士……………(30)
園内日誌・謝寄贈図書……………		

年頭の挨拶

楓会会長 久保 瑛 二

明けましておめでとうございます。皆様それぞれに良い年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今、私どもの入所者の平均年齢は既に八十七・三歳を超えての後期高齢者となり、合併症の急増という多くの身近な問題を抱え、不安と焦燥感に駆られる日々であります。

振り返って考えてみますと、私を含めて故郷を離れ、当園の所在地に転入、移籍して長期療養を送っており、且つまた、療養の場であるとともに生活の場でもあるという点が一般病院と著しく異なるところであります。

年明けての「毎日新聞」では、各園のハンセン病療養所の自治会運営についての「コラム」の中で高齢化現象、時において入所者の減少等により、自治会の機能低下等の記事を読ませていただくに及んで、当支部でも多くの問題に不安を抱いております。

特にこうした現実の課題とも言うべき、また将来の対策としての展望を検討する時に、誠に憂慮すべき事態になったものと、考えも及ばないところまで来ているようです。

当支部でも、約十年前より自治会役員も選出困難を来たし、現在私一人での活動に追われております。

私も高齢となり、若い先も短くなり、今後の計画もまた、超高齢化集団に変貌を余儀なくされつつある現状を深刻に捉え、医療、施設整備計画、また介護の内容等について、今後討議する必要があるのではと思っております。

本年はこうした実情の中で、医療機関としての機能が十分に発揮できる基幹整備の整った運営がなされるよう、より一層の運動を進めたいものと願っております。

一言、年頭にあたり新年の挨拶いたします。



退職にあたって

事務長補佐 齋藤 浩

この度、三月三十一日をもって定年退職する事となりました。

ここに感謝の意を込めて、紙上をお借りしご挨拶させていただきます。

これまで国立療養所東北新生園に六年という長きに亘り勤務させていただきましたことは、園長を始めとする園幹部の皆様、職員の皆様、並びに自治会長を始めとする入所者の皆様方のお力添えがあったからこそと、感謝申し上げる次第です。

入所者の皆様には、少しでも日々の生活を心豊かにお過ごしいただけるよう、様々な行事を通して精一杯お手伝いをさせていただきました

ましたが、如何だったでしょうか。

振り返るに付け、あの時はもう少しできなかったのではないかと、こうすれば良かったのではと反省すべきことだらけで後悔の念を禁じ得ません。

それでも、これまで行われていなかった行事を行うことで、或いはやり方を代えることで、少しでも喜んでいただけたのではないかと、自分では気休めでしょうけれど思っているところです。

加えて、天皇后陛下の行幸啓、寛仁親王妃信子殿下の三度に亘る、お成りになる機会に勤務できたことは望外の慶びであり中々経験することのないことでもあり、それ故お迎えするに当たったの準備などの仕方、接し方、お成りの持つ意味を体感できたことは良い経験をさせていただいたと言えるでしょう。

さて、私は赴任以来、園敷地内の緑の多さ、野鳥の爽やかな囀り、周辺の伊豆沼を始めと

する環境の良さに今でも感嘆しているところです。

仕事を離れた休日には、周辺の自然溢れる景色に感嘆し、或いは全国に名を成す松島などを散策し、さらには仙台市街の雑踏に塗れるなど、異なる環境をその日の気分で体現し、心を新たに業務に望む気分転換を図る事ができたことは、今日まで業務を続けられた一因ではないかと、今更ながら感じているところです。

平成三十一年度中には、東北新生園将来計画の基幹を成す総合診療棟が完成し、東北新生園の建物整備が一段落します。

療養環境が更に整えられますが、入所者の皆様は、平均年齢が八十七歳を越え年齢を重ねていくにつれ、心豊に穏やかに安寧の日々をお過ごしされるよう願ってやみません。

職員の皆様におかれましては、東北新生園の理念である「入所者の人権を尊重し、安心

で安全な医療を提供します」が、これまでもまた、これからも叶えられるよう努められることを望んでおります。

私も退職を迎え、これを一区切りとし、いままでの生活・人生を振り返り、今後の人生の有り様をどのようにして行くか見つめ直し、穏やかに、急がずゆっくりと過ごしてまいりたいものだと考えているところです。

末筆ながら東北新生園の入所者の皆様、並びに職員の皆様が健康に留意され、健やかに過ごされますよう重ねて祈念しております。大変お世話になりました。

定年退職を迎えて

施設管理係主任 小山 伸 男

私が東北新生園の施設管理係に採用されたのは平成三年の四月ですから、もうすぐ二十七年になるうとしています。

この二十七年間を振り返ってみて、最初に思い出すのは、やはり採用されてすぐの頃のことです。

ちようど楓寮と戸伊摩寮（西側半分）、機能訓練棟（長生会館）の新築工事中で、基礎工事を行っていました。

前任のMさんが、これらの工事が完了するまでということ週に半日、半年間ぐらい仙台から来てくれていました。

施設整備工事の仕事は元々専門ですからさほどの戸惑いもなく、うまく引き継げたと思

は林や藪の中だったりして見通しがきかず、次の境界杭に辿り着く（見つける）まで草刈りをしながら進んでいくわけです。

草刈りと言っても草ではなく、倒木や細い雑木、唐竹、笹竹、野バラ、ツタなどを刈り払って進んで行くわけです。

十数年の間、年に一〜二度、このようなことをしているうちに、境界に沿って道路のようなものを作ればすごく楽じゃないかということになり、重機を借り、木工場の人たちと数年かけて切り開きました。今では本場の草刈り程度で境界杭が確認できるようになりました。

あとは、やはり東日本大震災の時のことが忘れられません。あれは第一病棟改修工事の完成検査の日です。検査が終わり、厚生労働省から来ていた検査員を管理棟の玄関で見送り、中に入ろうとした時に襲った大きな揺れでした。管理棟の池の水が揺れて跳ね上がったのを今でも覚えています。

いますが、それよりも大変だったのが、施設の管理の仕事の方でした。

ちようどその頃、施設管理班の事務を担当していたKさんに「建物名と場所が頭に入らないと、これから施設管理の仕事をするのに大変ですよ。」と言われ、それからは配置図を片手に園内のあちらこちを歩き回りました。その当時は不自由者棟が十一寮、一般寮（軽症者棟）が二十二寮あり、更に各センターや第一病棟、治療棟、各種サービス棟等々あり本当に覚えるのが大変でした。

今ではもう解体されたものも含めて全ての建物の名前と場所がすぐに頭に浮かびます。

それ以外にもKさんには色々とお教わりながら、仕事を少しずつ覚えていったことを思い出します。

次に思い出深いこと（大変だったこと）は敷地境界杭の確認をすることでした。

東北新生園の土地は約三十五万平方メートル（約十万坪）の面積があり、更に境界周辺

私は仙台にいたときに宮城県沖地震を経験していたのですが、揺れている間はまともに歩けず、そのときと同じくらいの揺れに、大変なことになったとすぐに思いました。

まもなく検査員の人たちが戻ってきて、新幹線の架線が切れたり、支柱が倒れていて、今日は帰れないだろうということでした。

その後すぐに建物や設備に被害がなかったか調べましたが、第二水源地の自家発電機が傾き運転できなくなっただけで、それ以外は大きな被害はなく、取り敢えずはホッとしました。しかし、その後に大変なことに気づきました。地震があつてすぐに停電となり、当然ながら自家発電機が作動したわけですが、その燃料が残り少なくなってきたのです。停電が長引けばやがて発電機は停止してしまいます。

すぐに事務長に報告し、その夜、木工場のCさんと二人で、Cさんや隣家の農機具用の軽油を融通してもらい運搬しました。

翌日には2t車にドラム缶を積んで田尻や小牛田、南方、佐沼などのガソリンスタンドを回って事情を説明し、いくら何でも譲ってくれるようお願いして、回ったことを非常によく覚えています。次の日、タンクローリーで軽油を配達に来てくれた田尻の農協スタンドさん、すぐに軽油を売ってくれた南方のスタンドさん、佐沼のY石油さん、本当にありとうございました。

あれからもうすぐ七年が過ぎようとしていますが、被災地での震災復興工事の関係で、東北新生園の整備工事にもそれなりの影響があり、計画よりも進捗が若干遅れています。

いま、東北新生園の最後の箱物整備である、総合診療棟新築整備の工事が始まろうとしています。完成は二年後の平成三十一年度末の予定です。

どうかそれまで、入所者の皆様におかれましては健康に留意し、是非完成した建物を利用していただきたいと思います。

最後になりますが、皆様には大変お世話になりました。有り難うございました。



退職に当たって

看護師 佐 竹 より子

今年の三月に退職を迎える事になりました。私は昭和五十四年四月に夜勤の増員により採用となりました。

それから三十九年間入所者様、職員の皆様と共に日々過ごしてまいりました。入職当初、私は若くハンセン病の知識は何もなく、そのうえオリエンテーションもなかったのです。入所者様のお名前を覚える事と、傷の処置には大変苦労しました。

何をして良いのか分からず、よく先輩の後について行ってメモを取りながら覚えたものです。一番心に残った事は「痛みがない」という事です。

処置の度に「大丈夫ですか？痛くないです

か？」と聞きながらしていた事が、ついこの間のような気がします。

過ぎてしまえばあっという間、時の経つのは早いものです。当時は木造の建物が多く、正門の横には郵便局があり、旧売店の東隣には分館、旧分館の前には猿小屋がありました。猿はジャガイモを食べており、そのお世話に入所者の方がしていたと聞いて居ります。

入所者の方々の平均年齢も六十三、四歳と若く、毎日園内外でお仕事をして暮らしている方もいました。四季折々の行事も沢山あり、入所者の方が主催し、春は桜通りに提灯をつけるし、霧囲気いっぱいのお観桜会、入所者の方に着付けをしていただきドキドキしながら唄ったカラオケ、それから運動会での車椅子リレーでは夢中で走り一位になり、乗っていた入所者の方と手を取り合い、飛び上がり一緒に喜んだものでした。

秋は正門の立派な銀杏の木、裏山の楓の紅葉のすばらしさ、散歩の時に足を止め、見上

げてうっとりした事もありました。

冬はお年玉年賀ハガキがあり、一等は大きな箱の粉石鹸、当たるとみんな大喜び、大騒ぎで楽しかったです。

当時は三階建てのエレベーター付きの建物なんて想像も出来ませんでした。今は入所者の方々も、夏も冬も適温で過ごせるようになり「良かった」と思っております。

私事になりますが、三人の娘はそれぞれに成長し、孫にも恵まれました。孫って本当に「めんこい」ですね。また国立対抗のバレーボール大会では、今は退職なされた先輩の方々、遠くまで応援に来て下さった入所者の皆様の熱い志と、応援があり、念願の優勝が出来たと深く感謝しております。あの頃のパワーは無くなりましたが、健康にも恵まれ、「退職」というゴールは目の前です。入所者の皆様、スタッフの皆様、お身体を大切にお過ごし出来るよう、心から願っております。お世話になりありがとうございます。



随筆

一人暮らしの爺さん

今野 きよし

A 爺さん、また来た。今日も留守居か？
B ほうでない
A おれ一人暮らし初めて十年になる
A そんなになつたのか、いつの間に
B 一人、二人と出て行って
A いつの間にか一人になってしまった
A 早いもんだな
B 一人暮らしそんなになつたのか
A ほんだ。婆が居なくなつてから十五年に
なる
A ほんでも爺さんいつも明るくてええなあ
B 頭の先から、いつもつるつる明るいからな
A 爺さんには笑わされる
B ほんなごどない

A おれの方こそみんな来てくれて助かつてる
A みんな様子見に来てくれるのか
B 変わる変わる来てくれてありがたい
A おれはいつも夕方遅くなって申し訳ないな
A そんなことない。夕方遅くなるとしんと
B して寂しくなる。山ではキジ鳴いてな
A 爺さんでも寂しくなることあるのか？
B 俺だって寂しくなるさ。悲しくもなる
A 誰でも同じだね
B そうだ。同じ人だもの
A 人だけでない。山の鳥つこも寂しがって
B 仲間増やそうとしているものな
A この頃始まった選挙もそうだべ
B 仲間増やそうとしている

A 爺さん子供何人だっけ？
 五人だっけ・先に出て行ったのは誰？
 B 貴子だ。十八才だったな
 A 看護師になるって言って東京さ行った
 B それからたまちゃんだな
 A たまは従姉妹が名古屋にいたから
 B 手伝ってくれて、頼まれて行った
 A そうか、おら達子供の頃、夏になると
 B 貴子さん、たまちゃんと二人で
 A 夏休みに帰って来たっけな
 B そうだ、二人来るとそっちからもこっち
 A からもお客様来て賑やかだった。良かった
 B おれの同級生の父ちゃん、郵便配達の人
 A 普段は手紙頼むって置いていったのに今
 B 日は用事あるからって毎日のように寄っ
 A て行くっけな
 B それほどの事もないのに
 A なんとか、かんとかかって立ち寄ったのか
 B 貴子来るとお客様来るっけな
 A 東京さ行って来たから珍しい話もあった

A のかな
 A あつたでないの。おらも貴子さんに買い
 B 物頼まれて行ったことある
 A ガラスの小さい瓶だった
 B 二人来ると、着物の袴拭いたり、洗ったり
 A 洗濯屋に出したりして、暇なくやってた
 B おらの家の母ちゃん、買い物終わったら
 A 家に帰るようにと行って、おれどこ帰ら
 B せてなかなか帰って来なかつたな・
 A お茶飲みながら、羊かんをかじりながら
 B 話し語りしていたよ
 A おれどこ返してゆつくりしていたんだ
 B この頃、昔の事思い出してな・
 A 爺さんも思い出すことあるのか
 B 俺だって婆が居た時の事
 A ちよこちよこ思い出してな
 B それでも爺さん面白い話聞かせてくれる
 A もの
 B 貴子さん、たまちゃんと出て行って
 A あと誰だっけ・ああ利子さんだった

B タイプの学校さ行って、卒業して
 A 貴子に連れられて支那（中国）に行った
 B 貴子は看護婦、利子はタイプの仕事だっ
 A て
 B 爺さんこの頃腰に下げているのになや？
 A 娘送って寄こした物か
 B 風呂敷だ
 A 外さ出る時は気をつけてな
 B 泥棒に遭わないように四、五日前に隣部
 A 落の一人暮らしの
 B 馬喰いの家さ強盗入って行った
 A おらの家には来ない
 B 夜になると光るものあって薄気味悪いっ
 A て噂になっていて聞いていたから・
 B 泥棒も恐れて来ないんでないか
 A 光るものって気になるね
 B 隣だ。山から木の根っこ掘ってきて
 A 乾かしておいたの。夜になると青白く
 B 光るんだ。見た事あんべ

A 初めて聞いた。おらの家でも木の根っこ
 B を乾かしてある。雨模様之夜なんか青く
 A 光っているのを見たことある。あいつか
 B そうだ。光るのは
 A 光る木の根っこか、わかった
 B 爺さん難しい事、知っているんだな
 A そんなことできなく、たまたまな
 B 学者だな
 A 喜ばせてや
 B 誉めすぎたのか、たまに誉めるのもいいべ
 A それから最後に、家出て行ったのは
 B 初見さんだったね
 A そうだ。徴兵検査の年に一年家に居て
 B ぶらぶらしていたけど、二十歳の秋には
 A 兵隊に行ってしまった
 B 正真正銘に一人暮らしになってしまった
 A 日も暮れたし、話長くなつたから
 B お暇するからね。つづきはこの次にして
 A お休み。さようなら

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《自分で使える時間》

北 辰 一 硯

百五歳で亡くなられた
日野原重明先生は
テレビに出られて
語られたお話のひとつに
生きるという事は

自分の使える時間の
事だと仰って居りました

なるほど私は聞いていた
三十四歳で亡くなった父には
使える時間が短か過ぎて

残念であつたらう
せめて私が二十歳になるまでは
使える時間が欲しかった事と
思えてならない

喜ぶ時間、怒る時間、悲しむ時間
楽しむ時間、考える時間、句を作る
飯を食う、風呂に入る、本を読む
床屋にゆく、医者にゆく、小便に
ゆく
何に一つをとっても凡てが自分の
使っている時間なのだ

八十七歳になったこれからも
一秒一秒介護を受け
一秒一秒みんなに支えられて
何年間、私の使える時間が
あるか分からないが精一杯
虹の橋の向こうまで
わたって見たいと思っています

きている間のことだと捉えたい。生が終われば死
も終わるのですから。

【選 評】

《自分で使える時間》

北 辰 一 硯

今回は漁師体験など、これまで描いた活力のある作品と違っていて驚きました。
生きている時間を改めて大切にしたいという作者の強い思いが伝わってきます。終連の二行は生



短歌

皆川二郎選

◇入選◇

今野 きよし
枯蓮の沼の氷のうす白く眼こらして遠くを見つむ

【選評】

具体的な沼の名前は出てこないが、真冬の沼の水が凍り白々と光っている情景が浮かんでくる一首。作者はその静かな冷たい沼を遠く見つめているのである。

北辰 一 硯
鳴子峡の紅葉は今が見頃なりテレビ映像絵はがきの如し

【選評】

作者は、鳴子峡の紅葉をテレビの映像により見られたのである。実際に見られなかったのは残念だが、その素晴らしさを絵はがきのようであると感動している。特別な感動ではないが素直な表現に心ひかれた一首である。

今野 きよし
病院の掃除の婦人いそいそと言葉を交わしモッポ操る

【選評】

病院の一場面がありありと想像される一首であり、掃除を担当する婦人と作者との情景も浮かんでくる。歌は、情景が見えるのが良いとよく言われるがこの一首はまさにそうであろう。下の句がよい。

◇佳作◇

北辰 一 硯
春に見える栗駒山の駒姿十一月に見るは異常か
十一月に気温二十度は過ぎし易しされども異常な氣象恐れる
布団干し絶好の日和となりし今日色さまざまな寮の干し竿
最高級の近江牛肉食べている生唾呑みてテレビに見入る

今野 きよし

朝焼けの真赤な空に心まで浮き浮きとして初日の出待つ
盲人の妻は気持ちちを口にせずじつとこらえて自然に話す
入院し心の余裕取り戻し歌を作りて今日も過ごせり





俳句

山田桃晃選

◇ 入 選 ◇

退院のカルテを胸に冬紅葉
今野 きよし

【選 評】

退院と冬紅葉。なんとなく淋しくもあり、美しく心の温もりが胸を豊かにする。
冬紅葉の彩なす光りが病を忍んできた力がカルテという診療簿に、健康体と記された喜び一入である。

◇ 佳 作 ◇

園 永 泊
マスク取るやバラ一輪の天花です
共々にお手手つないで山眠る
いとやなぎ素直になれる真夏かな
思い出の小径の草や枯れかかる

今野 きよし

速足の歩調ちぐはぐ冬紅葉
病室と住居を往き来冬日和
託したき便りのありぬ雁の列
電波塔高く聳える枯野かな

斎藤 照雄

退職者見送る正門梅におう
春の海宮城みちおさん奏でお
立春の心どこやらほのぼのと
鳥かえり元の静けさ療の池



様々な事件かかえて山眠る
園 永 泊

【選 評】

様々な出来事、最近の相撲界での暴力沙汰が十一月場所中にあり、続いては上司のセクハラ。国技の恥さらしではないでしょうか。
山はぐっすり眠って春を待つしかない。相撲界の奮起を願うばかりですね。

糸信じ凧どこまでもどこまでも
斎藤 照雄

【選 評】

凧は日本特有のものではなく中国伝来とされて、色や形が様々である。糸信じに力を込めている強さを欺かない、偽らない、言をたがえない。
「どこまでも」の繰り返しが一本の糸のように長生きする喜び。自分自身である。



川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》 桃生 小富士

貧富の差問わず初日が照らして

【選評】 格差社会と言われる昨今だが日差しはまんべんなく地上を照らしている。自然の営みの公平さを知り、世の中の不条理を穿つ作品である。

《地位》 桜山南仙

酔っぱらったふりにも肩をかしてやる

【選評】

酔ったふりはお見通しで、友の思を受け止める優しさ。あ・うんの呼吸の友情でもあろう。このような友の存在こそ、人生の宝である。

《天位》 斎藤照雄

目、耳、足、無くした俺に笑いあり

【選評】

自らの境涯を恨むより笑う。諦観というより悟りの境地のようにも思う。一口に「人生いろいろ」などと言うが、そんな言葉では片付けられない重さがこの一句にある。

◇ 佳 作 ◇

桃生 小富士

霜柱ぎくぎく幼な日に帰り
後世に残したい句を紡ぐペン
廢船に屍北から流れ着く

桜山南仙

梅づけですする弁当里の味
忘れない君の瞳の美しさ

斎藤照雄

目も見えず耳も聞こえずニユースゼロ
想像の泉飲めども飲めどなおつきず
ハ氏病とお手手つないで幾山河

千 歩

ふかふかの腐葉土蓄え冬支度
ばあちゃんと諭吉も笑うお正月
夫婦して終の棲家とコタツにあたる

長沼蓮花

願い込め父の手作り恵方巻き
春を待つポストの前で右往左往
我が心気づけば鬼が棲んでいる

今野 きよし

目線にて会話を交わす冬牡丹
お目出度う声も艶々初日嗅ぐ

四十年を振り返り

看護助手 鎌田啓司

私が新生園に奉職してもう四十年以上となり、いろいろな思い出す事も多く感慨深いものがあります。

働き始めた頃、私は小さい頃から父親の関係（東北農場）で新生園に遊びに来ていたせいか、私を知っている入所者の方も多くおられました。

仕事をし始め園内や治療棟ですれ違ったりすると、よく「大変だけどがんばれよ！」「時々部屋に遊びに来ていよ！」と声を掛けてくださった方々も多くおられました。

時と共に多くの方はお亡くなりになり、時々入所者の方と昔の話をする時に思い出し、

当時の事のお話をする事もあります。

奉職当時の新生園は、ほとんどが木造の建物でした。事務本館棟は二階建てで二階に会議室があり、大勢の人が入ると板目の床が抜けるのではと感じるほどでした。

更衣棟や治療棟は現在と同じ配置でしたがやはり木造で、廊下の床は剥き出しのコンクリートで夜間は裸電球だけでしたので、明かりで不気味ささえ感じたものでした。

現在の病棟は新築（現在まで数回改築をしましたが）したばかりで、裏手には空室で使用していない二病棟、三病棟と数棟が傾斜地に建っていて第一病棟とは急な廊下で繋がっていました。その上あたりに山鳩寮があり、現在の山鳩寮は移動して二回程改築した建物となっています。不自由者棟もすべて木造で寮間の中央廊下は場所によっては傾斜がきつく、車椅子はもちろん歩くのも大変な所もあり、また強風の時などは外への入り口の戸が

はずれたり、吹雪けば窓の隙間から雪が入り込んだりしていました。

当時の不自由者棟の廊下には暖房が無く、冬は流しの水道が凍らないように工夫しなければならず大変でした。また、当直時の巡回には防寒着が必要な寮もありました。

当時は寒さとの戦いでもありましたが、今となつては笑える思い出です。

現在の新生園を見ると本当に時の流れを感じます。園内の道路は舗装され車椅子でも自由に移動でき、公園や睦ヶ池周辺も整備され「冬の白鳥」「春の桜」「夏の深緑」「秋の紅葉」と四季折々を感じる事が出来、建物の中は温度が一定している、このような環境を作り上げ維持していくのには、関係者の方々の並々ならぬ努力があつた事と思います。

私もいろいろな形で全国十三園のうち九園ほどのハンセン療養所を見学させて頂きましたが、このような環境はそれぞれ特徴ありま

すけれど、自慢できる事だと思っています。

働き始めて十数年経つた頃でしょうか、ある入所者の方とハンセン病や療養所について話をしていた時に「お前はまだまだひよこだなく」と「知識や技術だけでなく、今以上に入所者に寄り添えるようになれ」と笑っていました。

ちよつと驚きましたが「慣れ」や「もう知っている」そうした思いに釘を刺されたのだと思います。

最後に一言書かせて頂ければ、もう退職なされましたが、以前ある先生と立ち話の中で「どうしても肉親を施設に入れなければならなくなつたら、新生園に・・・と思える所にしたいいね」とそのような話しをしたのを思い出し、想うがままに書かせていただきました。大変有難うございました。

私も退職なんですネ!!

看護助手 米 森 直 子

今までたくさんの方の諸先輩方を見送って来た
と考えます。ついに私の番が来た。本当に長
い歳月が過ぎました。当たり前ですネ。

福祉室に採用され、一年半郵便、葉袋の配布
自転車の前後のカゴを一杯にし配達。雨風
雪の時は苦労しました。特に年賀ハガキの配
達には苦労した覚えがあります。入所者の方
の名前、顔も覚えていないのに区分け。

当時は園内ハガキもあり枚数もハンパでは
ありませんでした。園内ハガキの抽選会では、
新生会館が景品でいっぱい絶対ハズレはな
かったです。

配置換えでの移動で中央集会所勤務になり、

行いましたが、残念ながら今はもうありませ
ん。殆どの行事が消え淋しくなりましたね。
十五年ほどの中央集会所勤務を経て、長生
会館に一年ほど勤務しました。

朝一番に窓を開け、掃除、草取り、慣れな
い書類作成、GG、GBなども実施。カラオケ、
ゲームなどを計画。園内の電話帳も作成して
配布しました。

その後、看護課に異動し現在に至っており
ます。全く家以外では看護、介護経験もない
ため、必死に覚えました。食器は手洗い、毎
日の準備、ご飯を盛るのも目測でグラムが計
れるようになり、魚の骨取りも大小の骨を取
り除き楽しかったです。センターは二年以内
で移動になり、その都度また一年生に戻り、
早く覚えようと必死でした。

諸先輩方の指導で二人宿直から一人宿直を
体験し、夜間の急病人の対応、引越業務も担
当しました。ある時、コール対応で「蛇」が

集会所、福祉会館、新生会館、新月寮の内外
を女二人で管理です。諸会議、親睦交流会、
ブロック会議、支部長会議、GB大会、大運
動会、文化祭などの接待はもちろん、宿泊の
準備、世話もあり草取りは日中では終わら
せませんでした。その為、今でも草取りと雪かき
は上手ですよ。すべて残さず綺麗に片付けな
いとダメなんですネ。

賀詞交歓は三十分の間にお茶、コーヒー、
卵酒、ジュース等、神経を張り詰めた静
かに速やかに運ぶ。「おもてなし」の心です。

思い出に残るのは新生会館で、園内ハガキ
の抽選会を、宝くじの抽選のように矢を的に
当てる役。新春の祭典として職員全員が着物
を着て歌うなど、二年行いました。皆さん喜
んでくれたのが嬉しかったです。

観桜会には福祉の職員が参加して「好きに
なった人」を踊り、場を盛り上げながらカラ
オケの手伝い、着付け等、出演者といういろ

いと話され、小さな蛇でも入所者を守る為
に苦戦です。

病棟では、お正月の洗濯物が部屋いっぱい
に置かれ、たたむのに三日くらいかかりまし
た。入室も毎日移動し、朝出勤すると変更
です。入室者が多かったので仕方ありません。
職員も四人から二人と減員になり、業務内容
も変更された時期でした。センター勤務で大
引越も体験し、収納するまで緊張して仕事で
す。看護課勤務では、たくさんの方の入所者様と
の別れもありました。

東日本大震災の時には、電気が使えず毎日
の洗濯は手洗いをし、手で絞って乾かす。空
室利用で干してもなかなか乾きませんでした
が、連日の繰り返しでした。

震災の瞬間は早出の為、受け持ちの布団敷
等の業務を終えて戻ろうとした時の激震でし
た。「俺は年だから貴女だけは逃げなさい」
と言う入所者の方を布団と一緒に移動し、布

団で覆い、地震が収まるまで待ちました。新生園は被害がなくて安心しましたが、家に帰ってビックリ、たんすの引き出しが飛び出し、植木は落下、月明かりのもとで片付けました。次の日からはガソリンがないため、自転車通勤です。自宅の自転車は役に立たず、隣の家の自転車を借りて通勤しました。行きは上り坂で四十分、帰りは下り坂で二十分でした。

本当に思い出の多い三十五年間でした。私のような者でも、定年まで勤務できたことの喜びで、本当にありがとうございました。

入所者の皆様、職員の皆様、お身体を大切にしてお元気で過ごしてくださいませ。
お世話様でした。

思い出

看護助手 遠藤 和子

この度、新生誌の原稿依頼を受けたもの書きなれない事もあり、何を書いていいやら考え、私の思い出を書かせて頂きます。

私は平成四年四月に看護助手として、週休二日制増員で、私を含め三人が賃金職員として採用されました。

一緒に採用になったのは、退職した尾形のりえさんと伊藤陽子さんでした。

山鳩寮は尾形のりえさん、栗駒寮（今のさくらホール）は伊藤陽子さん、私は高砂寮（今の第二メープルケアセンター）に配属され、新生園での第一歩を歩み始めました。

最初は介護の経験もなかったので、毎日失敗ばかりでした。入所者の方の顔と名前が一

致するまでは何日もかかりました。それでも先輩方の指導のおかげでここまで頑張ってきたことが出来ました。

私が入職した頃の掃除は午前と午後で箒で掃き出し、一週間に二度掃除機をかけました。長い柄の箒を使い掃き出しをするのは大変で、今では懐かしく思い出されます。

一年が過ぎた時、園の行事で観桜カラオケ大会への出演依頼があり「新人は必ず歌うんだ」と先輩方から話され、寮の代表として出演しました。

それから春は志津川方面、秋は定義山方面へのバス旅行、運動会は走って踊って飛び入りして、当時は盛りだくさんに行事がありました。今は行事が少なくなりましたが、こちらも懐かしく思い出されます。

色々な事が頭に浮かんで消え、また思い出してはあんな事、こんな事があったと一人で微笑んだりして、たくさん思い出がよみがえってきます。



毎日忙しく頑張っていた私ですが、体調の変化に気付かず、検査で見つけていただき再検査、入院、そして手術もしました。

いつも元気でどこも何ともないと思っていた自分が居て、命の大切さを強く感じました。仕事に復帰した時に皆様からの励ましの言葉や手紙を頂き、とても元気づけられすごく嬉しかったです。

周りのスタッフの方々に助けられ、定年まで辞めずに勤める事、この時期を迎えることが出来ました。本当にありがとうございます。入所者の皆様、職員の皆様、お身体大切に経過してください。

長い間本当にありがとうございました。



お世話になりました

看護助手 渡辺とみ子

私は最初、新生園の売店で五年間ほど働いていました。注文を受けたり、配達等をして少しは入所者様の名前と顔は知っておりました。

ある日看護助手の募集がある事を知り、面接を受け新生園で働く事になりました。

看護助手として採用となり、何度か園の旅行で付き添いとして参加させていただきました。秋の定義山に行った時には、入所者様と茶屋へ初めて連れて行ってもらったりと、楽しい思い出があります。

初めは誰でもそうかもしれませんが、経験のない介護の仕事がなかなか覚えられず、本

当に大変だと感じました。

それにいままでこれほどの人数の方達と働くという事もなく、自分から声をかけたり、意見を述べたりすることが恥ずかしかったりと、慣れるのに時間がかかりました。

ここでの色々な経験がとても勉強になり、少しは成長出来たかなと思います。

看護助手になったのがもう少し若ければ良かったのですが、四年と十ヶ月での退職となります。

これから何をしようかと考えてから、もう少し働いてみようと思います。

入所者の皆様、スタッフの皆様、お身体にお気を付け元気で経過してください。本当に世話になり、ありがとうございました。

原作・桃生小富士
まんが・北村小蝶



4コマまんが

別れと出会い



東北新生園イルミネーション点灯式

平成29年12月1日

